

## 組合創立120周年記念連載 「木材会館の歴史」

副理事長 森林慎介

現在新木場駅前に聳え立つ木材会館は五代目の建物である。今回は歴代の木材会館について振り返ってみましょう。

### 初代の木材会館

東京材木問屋同業組合の定款に組合事務所の住所が記載されている。

第五条 当組合ノ事務所ハ東京市深川区仲大工町廿七番地ニ置ク

この住所は現在の江東区清澄3丁目8番地10号あたりだそう。最初の事務所が元々組合所有のものなのか組合員の事務所を借りていたのかは定かではない。



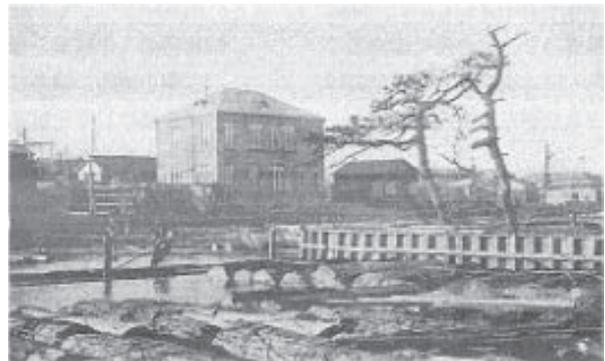
旧事務所 (江戸東京木材史P550)

### 二代目

関東大震災の翌年の大正13年(1924年)に新事務所を新築し、同年12月21日に落成式が行われた。住所は東京市深川区三好町1番地(現在の江東区平野4丁目1番地10号)で尺貫法ではなく、メートル法で建設された。構造は木造総二階建てで、一階140㎡、二階140㎡、付属便所15㎡、総面積295㎡。



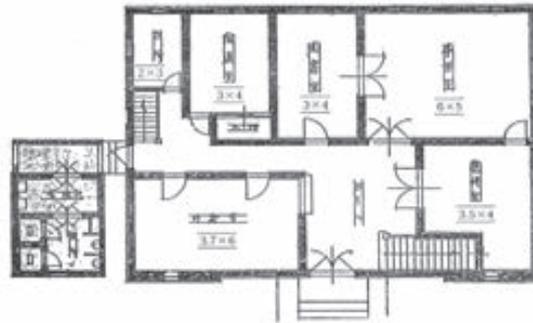
当組合事務所



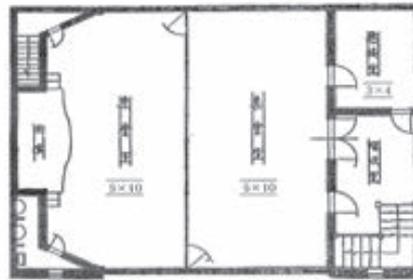
背面より望む

(江戸東京木材史P550)

圖面平所務事合組



( 階 一 )



( 階 二 )

組合事務所平面図

(江戸東京木材史P551)

### 三代目

東京大空襲で焼け野原になった木場には建物らしいものはなかった。独立した組合事務所と会場場所の確保は、組合員の意志疎通と運営協力には欠かせない事案として、その実現が急がれていた。新事務所は人形町あたりとの意見も出たが、東京の木材の中心は木場である。木材会館は木場に建てるべきであるとの意見に纏まり、昭和23年(1948年)5月下旬に新しい事務所は竣工した。住所は江東区深川2丁目24番地(現在の江東区深川2丁目5番地11号)で旧材木通信社跡地である。敷地面積は771.705㎡で、構造は木造二階建て、一階226.05㎡、二階234.30㎡、総面積460.35㎡。

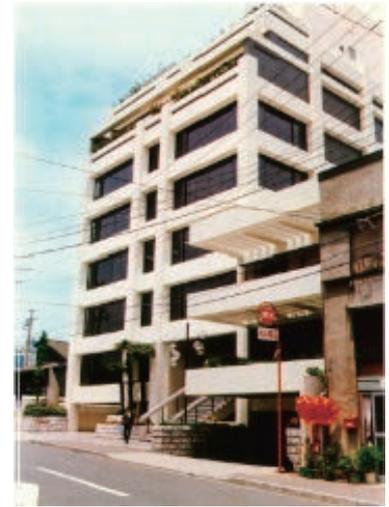


(深川木場P193/ 林材新聞社)

#### 四代目

三代目の会館は昭和49年（1974年）に取り壊され、その跡地に新しい木材会館が建設された。この会館は地下一階・地上七階建てで、構造は地下部は鉄骨鉄筋コンクリート造、地上部は鉄骨造であった。敷地面積は1,088.64㎡、建築面積は542.52㎡、延床面積は3,615.23㎡。地下と一階は駐車場、二階は組合の事務所と食堂・ロビー、管理人室。三階から五階はテナント用事務所、六階は会議室・役員室、七階は大講堂であった。

昭和50年（1975年）7月23日に七階大講堂で600名を迎え完工式を行った。



木場のシンボル「木材会館」  
（江戸東京木材史P1253）

#### 五代目

問屋組合創立100周年記念事業の最大の目玉は、木材流通の中心地である新木場に木材会館を建設することであった。平成19年（2007年）11月に地鎮祭を行い、平成21年（2009年）7月5日に竣工した。住所は江東区新木場1丁目18番地8号である。

敷地面積は1,652.90㎡、建築面積は1,011.26㎡、延床面積は7,582.09㎡。地下一階・地上七階建てで、構造は鉄骨鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造・一部木造。地下は駐車場、一階はエントランスホールと和室と茶室、二階は問屋組合と都木連の事務所・役員会議室。

三階から五階はテナント用事務所、六階は会議室と小ホール、七階は大ホールになっている。使用されている樹種は、内装・外装そして構造に檜・杉・タモ・ナラ・カシ・ブナ・かえで・くるみ・さくら等1,000㎡以上の国産木材である。



現在の木材会館（竣工写真）  
（本文は江戸東京木材史より抜粋）